

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	はあとm+M新山口		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 3人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2026年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各専門職がチームとなって対応している。個々のニーズに寄り添った対応ができています。	専門的支援の徹底。各分野のそれぞれの立場で児童のニーズを洗い出し、それを、定期的に事例検討会にて他の専門分野と議論することで、問題解決に取り組んでいる	今後は、学校や病院、他のサービス等とも積極的に関わることで、在宅での生活を支えていきたい
2	保育園や外部地域の人との関わりを持っている。	保育園との交流を月1～2回おこなうことで、地域社会との接点を持つよう意識している。 同世代の子どもたちと接することで、相乗効果を得ることができ、興味の幅を広がるよう意識している。	学生ボランティアの受入も実施し、いろんな世代の人との関わりを持つことで、サポートの輪を広げていきたい。
3	児童にいろいろな経験、体験ができる。	地域散策等イベントやクッキング、その他いろんな行事の企画し、五感をしっかり刺激できるようにしている	さらに体験が積めるように地域資源を見つける。 家庭では体験しにくいことを活動プログラムに入れる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	重度者と軽度者の混在 環境整備	重度者と軽度者が混在しており、動きが不安定でな低年齢の児童もいるため、見守りが必要だったり、マンツーマンでの対応をしなければ事故のリスクが高い。	全体を見守りしやすいレイアウトを検討 個別療育を集中的に行い、軽度者については通常の児童発達支援への移行をおこなっていく。
2			
3			